

2016年5月23日

産業用インクジェットヘッドを新開発 ～薄膜ピエゾアクチュエーターを搭載し、高解像度を実現～

株式会社リコー(社長執行役員:三浦善司)は、この度、薄膜ピエゾアクチュエーター*1を搭載した産業用インクジェットヘッドを開発しました。5月31日～6月10日まで、ドイツのデュッセルドルフで開催される国際印刷・メディア産業展「drupa」に参考出品いたします。

新開発インクジェットヘッドは、ゾルゲル法*2を利用して製造した高い剛性を持つアクチュエーターによって駆動し、従来品でご好評をいただいているマルチドロップ制御*3を可能にしています。また、リコーのMEMS*4技術を活用した独自の高集積設計により、320×4列の1,280ノズルを搭載しています。300dpi/列の千鳥配置の構成により、最大600dpiの高精細印刷を実現します。さらに、インク流路を分離することで、1ヘッドで4色のインクの吐出が可能です。

リコーは30年以上培ってきた独自のインクジェット技術を有しており、オフィスおよび商業印刷市場のお客様に多彩なインクジェットプリンティングシステムを提供して参りました。また、産業分野のお客様に対しても、インクジェットヘッドやインクの外販から技術サポートまでを担う事業を展開し、サイネージ、テキスタイル、3D造形など幅広い用途でご活用いただいております。

この度の新開発インクジェットヘッドにおいても、自社プリンティングシステムへの搭載をはじめ、さまざまな産業分野のお客様への導入を進めることで、プリンター市場の拡大と産業用インクジェットアプリケーションの成長に貢献してまいります。

*1 電圧が加えられると変形する素子(ピエゾ素子)の一種で、インク滴を吐出する機構で使われる。

*2 原材料の水溶液から固体材料を製造する手法。

*3 濃淡表現のために使われる技術で、インク滴を空中で合体することによりドットサイズを変化させる。

*4 Micro Electro Mechanical System の略で、微小電気機械デバイスあるいは技術の総称。

｜ リコーグループについて ｜

リコーグループは、ドキュメントマネジメントシステム、ITサービス、プロダクションプリントソリューション、ビジュアルコミュニケーションシステム、デジタルカメラ、産業用製品・サービスなどを世界約200の国と地域で提供するグローバル企業です(2016年3月期リコーグループ連結売上は2兆2,090億円)。

創業以来80年にわたり、高い技術力、際立った顧客サービスの提供と、持続可能社会の実現への積極的な取り組みを行ってきました。

想像力の結集で、変革を生み出す。リコーグループは、これからも「*imagine. change.*」でお客様に新しい価値を提供していきます。

より詳しい情報は、こちらをご覧ください。 <http://jp.ricoh.com/>